

登録コード	UAG01500	開講年度	2026					
授業題目	上級ミクロ経済学				担当教員	本多 純		
					副担当			
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	月曜・1時限			
				授業形態	講義			
信大コンピテンシー	非該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				【授業の達成目標】			
	2 6 UAカリ・総人社・経済学, 2 5 UAカリ・総人社・経済学, 2 4 UAカリ・総人社・経済学							
	【経済学】経済学分野の高度で先端的な知識と技能を有する。				専門知識を応用・実践する力として、自ら立てた問いに対する仮説検証と多角的な議論を積み重ね、エビデンスに基づいた説得力のある提言を導き出す力を身につける。			
(2)授業の概要	本講義では、ミクロ経済学のフレームワークを軸に、現実の市場競争と企業戦略、規制の役割を、市場データや政策資料の収集・分析を通じて実践的に説明します。							
	具体的には、実務上の関心や社会課題に基づき、特定の産業における競争戦略や規制環境を多角的に解説し、資料作成を基に報告します。教員や他学生との議論を重ねることで、分析の論理的整合性と精度を磨き上げます。経済学のロジックを現実 に即して運用し、複雑な経済メカニズムを自力で読み解く分析力と、論理的に伝える発信力を養います。 遠隔授業を実施する場合は、Zoomによるリアルタイムオンライン授業を行い、ミーティングURLはeALPSまたはメールで事前にお知らせします。							
(3)授業計画	本計画は、各メンバーのプロジェクト進捗や議論の深掘り度合いに応じて、順序や内容を柔軟に調整します。							
	第1回 【ガイダンス】 授業の進め方 第2回 【問いの設定と仮説構築】 産業・業界の選択と問い・目的の特定 第3回 【リサーチ・デザイン】 仮説を検証するための調査・データ（一次資料）の特定と収集計画 第4回 【産業構造の予備調査】 市場規模や主要プレイヤー、規制環境の把握（問題の背景整理） 第5回 【中間報告 : 問いとメカニズムの提示】 分析の目的と、想定される経済学的ロジックの発表 第6回 【議論とリサーチの修正】 フィードバックを受けた仮説の再構築と調査範囲の調整 第7回 【データによる実態検証】 決算資料や統計を用いた、市場構造と企業行動の定量的・定性的分析 第8回 【経済学的フレームワークの適用と深掘り】 産業組織論のフレームワーク（価格戦略、参入障壁等）を用いたメカニズムの解明 第9回 【中間報告 : 分析結果の提示】 データに基づいた仮説の検証結果と、残された課題の報告 第10回 【討論と深掘り】 他者からの視点を取り入れた、分析の死角の補完 第11回 【解決策・処方箋の検討】 企業の戦略的変更や、政策・規制（独占禁止法等）による是正案の考察 第12回 【効果予測と社会への影響】 提案した処方箋が、市場の効率性や消費者便益に与える影響の評価 第13回 【最終成果報告：産業のトータル解剖】 問いから解決策までを一貫した論理で提示するプレゼンテーション 第14回 【振り返りとレポート執筆】 プロセスの再考察と最終レポートへの適用 ----- レポート提出							
(4)成績評価の方法	・授業内での発表および提出物（80%） 調査内容の論理性、データの裏付け、資料の完成度、およびプレゼンテーションを総合的に評価します。							
	・授業内での討論・質疑応答への貢献（20%） 発表に対する質問・コメントの鋭さや建設性を評価します。単なる感想ではなく、論理に基づいた疑問・新しいデータの提示・他者の意見を踏まえた議論の深掘りなど、クラス全体の学びを一段深めるような発言を高く評価します。							
(5)成績評価の基準	授業計画に示した報告およびクラスにおける討論等の貢献度によって評価します。 具体的には、新入生ゼミナールでの理解・説明の基礎の上に、調査（データ）活用・論理的分析を加え							

(5)成績評価の基準	た下記の4つの観点から評価します。 (i) 調査・分析の適切さ： 市場調査（データ）、決算資料、政策ドキュメント等を自ら収集し、経済学的フレームワークを正しく適用して業界構造を解剖できている。 (ii) プレゼンテーションの論理性： 情報を整理し、聞き手が業界の核心を理解できるよう、論理的な構成と視覚的な工夫（図解等）を用いて説明できている。 (iii) 双方向の議論への貢献： 質疑応答において的確な根拠を持って回答し、他者の報告に対しても建設的な批判や新たな視点を提供することで、クラス全体の学びを深めている。 (iv) 独自の洞察・提言： 既存情報の整理に留まらず、分析結果から導き出される独自の考察や、現実の政策・企業戦略に対する評価、あるいは改善策を提示できている。 (i)から(iv)の4項目を満たし、かつ教員や周囲を深く納得させるレベルにあれば「卓越している」、4項目を満たしていれば「かなり上にある」、3項目までできていれば「やや上にある」、2項目までできていれば「水準にある」と判断します。
(6)事前事後学習の内容	・事前学習： 担当業界のIR資料、業界団体レポート、政府白書（経済財政白書、ものづくり白書等）の収集と読解。議論を通じた分析の組み立てと、報告資料の作成。 ・事後学習： 授業での質疑応答や教員からのフィードバックを反映させた、最終レポートの執筆。
(7)履修上の注意	・論理的・データリテラシーの重視 基本的な経済学的ロジックを、現実のデータを解釈するための道具として活用します。数式そのものの計算能力以上に、決算資料や統計データから何が起きているのかを論理的に導き出す思考力が求められます。 ・主体的参加と責任 本講義は学生主体の活動が中心となるため、出席と積極的な議論への参加が不可欠です。自身の欠席は全体の進捗や評価に直接影響を与えるという自覚を持ち、責任感を持って取り組んでください。 ・デジタルデバイスの活用 情報の検索、共有、およびプレゼンテーション資料の作成にネットワーク接続可能なデバイス（PC推奨）を多用します。eALPSを通じた資料共有や共同編集を円滑に行えるよう、毎回の持参を前提とします。
(8)質問、相談への対応	・対話による深掘り 質問を議論を磨くエンジンと捉え、活発な意見交換を歓迎します。報告中の議論はもちろん、報告後の質疑応答においても、教員・学生といった立場を超えた活発な意見交換を強く推奨します。単なる正解の確認に留まらず、異なる視点を取り入れることで、自分の論理を磨き上げ、独自の洞察へと昇華させるプロセスを大切にしてください。 ・継続的なフィードバックとリサーチ支援 授業時間内に収まらなかった深い議論や、資料収集・分析手法に関する個別相談は、eALPS等のフォーラムやメッセージ機能で随時受け付けます。プレゼンテーション後の振り返りや、他者への追加質問・情報共有も歓迎します。クラス全体で優れた視点を共有し、互いの分析精度をボトムアップさせていく場を目指します。
【教科書】	指定しない。
【参考書】	・産業・企業分析のためのリソース・ガイド 報告の質を高めるための情報の探し方をまとめたリストです。EDINET（有価証券報告書）、各省庁の白書、公正取引委員会による実態調査報告書など、信頼性の高い一次資料へのアクセス方法と、それらを経済学的に読み解くための着眼点を提示します。 ・ケーススタディ・アーカイブ（実例と審決例） 独占禁止法上の事例集を紹介し、理論が実際の法執行やビジネスの意思決定にどう反映されたかを学ぶための、生きた教材として活用してください。 ・分析の高度化に向けた発展資料 高度な分析手法や、最新の論文を紹介し、独自の視点を磨き、分析の専門性をさらに高めたい学生向けの発展的な内容です。